

第1回PTA部会 議事録

(1)日 時：令和5年5月23日（火）午後7時より、（教育会館 第4研修室）

(2)参加者：委員（7名）（3名欠席）、事務局10名

(3)内 容

①部会長あいさつ

②資料説明及び意見交換

・これまでの経緯について

・スクールバス通学について（案）

《部会長あいさつ》（省略）

《資料説明及び意見交換》

（これまでの経緯について）

事務局 ・スクールバスについて検討してきた内容を説明。

①スクールバスの発着場について

・勝高周辺の交通混雑状況、近隣住民の方々への配慮等でジオアリーナ駐車場に決定

②スクールバスの運行方法

・市の公共交通機関によるハブ方式と直行方式を検討し、直行方式を軸に進めるが地区や状況によってハブ形式の可能性も残しておく。

③スクールバスの運行ルートについて

・ジオアリーナから3km以遠を対象に考える。

資料1-1：8ルート（案）を説明（バス停までを1kmと想定）

資料1-2：10ルート（案）を説明（バス停までを500mと想定）

参考資料：第3回PTA部会での意見抜粋を説明

部会長 ・最終的な討論内容になっているが、当然ここまでに至るにはさまざまなお意見をいただいた。ハブ方式と直行方式についてももう少し話をする。ハブと聞けばだいたいどんなイメージがつかれると思うが、各地区で中継点というところを設けておいて、そこまでをデマンドというか小型バスで生徒たちを集めてその中継点から大型バスで学校の方へ移動するという、1回乗り換えをする方式になる。例えば北部中学校にハブを置いてあと各地区から何台かのバスで生徒を乗せて北部中学まで来て、北部中学に待機している大型バスに乗って学校の方へ移動させる。南部、北部、中部各校区に中継ポイントを何点か設けて、そこからバスを発着させる方式になる。もう一つの直行方式は乗り換えなしに子ども達にバス停まで来てもらい、バスに乗って直接学校まで来る方式になる。ハブ方式についても、ここで全部却下するのではなく土俵の上に載せた形でこれからの討論の中で議論を進めていくことで残してある。主軸としては、子ども達の利便性や安全性を考慮すると、直行方式の方がベターもしくはベストであるというご意見が多く直行方式を中心に進めてきた。最終的には中部校区、南部校区、北部校区に分かれてどういうルートが一番精度が高いルートかを検討して出てきたのが、10ルート（案）と8ルート（案）だにご理解いただければと思う。バスの発着場は基本的にはジオアリーナだが、子どもが勝山高校を卒業しているが、その当時から勝山高

校前の長山の下に芳野医院から入ってくる道と、西小から入ってくる細い道の三叉路がある。ここに送迎の車がかなり入ってきて非常に混雑することを私も経験している。近隣の方々の朝の出勤時間とぶつかるので、交通上いろいろな問題が発生するという声をたくさんお聞きしている。いろいろ候補地は検討させていただいたが、最終的にジオアリーナの方でのスクールバスの発着がベストではないかという結論に至った。昨年度のPTA部会で校区ごとの立場でいろいろ議論をいただき検討させていただいた報告内容をご理解していただきたい。今日、第1回のPTA部会では、基本的には昨年の検討内容をベースにさらに発展させていくことになる。皆さんには昨年度のPTA部会での検討内容についてご理解をいただいた上で、次に進めたい。この後第1回目なので、それぞれの自己紹介を含めて昨年度の検討内容についてのご意見もしくはご質問等があったら話を伺えればと思う。それでは順にお願いしたい。

委員1 ・今回初めての参加になる。小5の子どもがいるので、その子が中3の時に関わるということを聞くと現実的なので気になることがある。どんなバスに乗るという前提か。

事務局 ・遠い地区の子もいるので、昨年場合はジオアリーナから3kmよりも遠い子はバス通学の対象としてはどうかということで例えば平泉寺地区は全員になる。北部校下も全員になる。その人数がここに上がっている。絶対バスに乗りなさいというのではなく、対象とするところのようになるという案である。

委員2 ・例えば、平泉寺地区だと現在の中学生はほとんど送迎している。中学生は携帯は持たないし連絡手段もない。例えば毎日のことなので遅れたり特に雪とかもある、そういう時に今は小学校も中学校も、親の携帯にいろいろ連絡が来るシステムにはなっているが、子ども達はバス停に行き、親は仕事なり家にいたりする。バスが遅れた時とかここで乗って何かがあるときにどう待っている子らに伝えるのか。休んだり今日は乗る、乗らないということが出てくると、バスの運転手はここで5人乗るということまで管理しているバスなのか、普通に運行しているバスでそこで乗った人だけを連れていくというバスなのか気になった。雪が多いので大丈夫なのかとは思いますが、この直行方式では平泉寺のバス停は歩いて行けるところにある。それ以外はバスがどこまで管理しているのか、お母さん方も心配ではないか。そのバスに乗せるぐらいなら自分たちで連れて行った方がいいとなるかもしれないので知りたい。

事務局 ・こうですとは言えないが、バスの利便性は上げていかないといけないという意見は昨年度も出ていた。まだ決まってはいない。

・今のご心配は当然で、昨年度の委員からも出ている。先ほどの説明の補足にもなるが、今のところ、スクールバスは無料で子ども達に乗ってもらう、ご家庭の経済的な負担をかけないという形を基本としている、運転手は公共交通機関の運転をしている勝山の交通事業者に委託をしていく形。運行上の安全は、普通の公共のバスと同じようなレベルで担保していかないといけないと思っている。欠席の時に運転手が発発していかどうか分からないことについては、なかなか難しく、ルールの問題として今年1年はバスに乗って通学しますというのをあらかじめ登録する方式になれば、必ずこのバス停に

はこの子が来るということをあらかじめ運転手はわかる。今日いないなという時にどうするかというのは、連絡を取り合うとか、そのような仕組みは別途必要だと思うが、どういう形が保護者の方も安心されるし、確実に乗っていけるのかというのは今から検討していくということになる。あるいはガラリと考え方を改めてこういうダイヤで運行しますよというスクールバスにして乗りたい子はどうぞとその代わり定時になったら出発しますというルールで運行するというなら、それに合わせてもらわないといけないという話になる。その意味では公共のバスに乗ってどこかに行くということと同じ形になる。皆さんのご意見をいただきながらどういう形がいいのかというのを集約していく、いろいろなことを言っていたければありがたいと思う。

部会長 ・子どもの安全性や利便性を考える中では、例えば一般の人と一緒に乗って大丈夫なのかという不安を持たれる親御さんもいらっしゃる。先ほどの説明の中にもあったが、バスに乗った、学校に着いた、実際のバスはどのあたりにいるという案内などソフト面における充実を図っていくということも必要だという意見が昨年度の中で出ている。そのあたりを含めて少しずつ肉付けして煮詰めていきたいと思うので、よろしく願いたい、

委員 3 ・スクールバスを出すことが保護者からの希望として上がっているという前提のことか。

事務局 ・希望ではないが、最初の再編計画の時にスクールバスを出すという計画になっている。

委員 4 ・先ほどの話ですごくそうだなと思ったのは中学校の通学はほとんどの人が車で連れて行っているのもあるし、小学校全体の集まりですら見守り隊がついて行くという感じで親の連絡が一つ送れるか送れないかで結構朝バタバタしている状況の中で正直、この直行とかハブとかはどちらでもいいしここに時間をかける必要があるのかと思った。先ほどの意見もあったし、うちもそうだし、利用したい人もいるだろうし、利用したくない人もいるという形にしかならない。中学校が一箇所になって全部が遠くなるから、スクールバスを使ったら、みんなが気持ちよく納得できる。バスも決めればいいという感じ。皆さんの意見は聞かずにこう決めて、こういうルートで走りますから、使いたい人はどうぞ。それに対して懸念点を感じる人は使わないし、便利だと思う人は使う。時間通りに行くことがいいと思う人はそうだという事実が残るだけだと思う。どこの県でもそうだが、どこどこに学校が建つ、行く人のルートの選択肢が増えたというだけの事実で、意見を聞くのはよくわからない。意見を聞いたらいいい解決があるといいが、多分いい解決はない。決めてしまえばいいのではないか。勝手に決めて勝手に走らせて問題点が出たら改善する。そうでないといつまで経っても答えが出ないだろうと感じた。

部会長 ・確かに一方的に決めるというのも一つの方法としてあると思う。昨年度PTA部会で話し合いをしたがハブ方式と直行方式についてはすぐに方向が出た。直行方式の中で、ルートも含めていろいろ市の方から案を出していただいたが、それに対しても、いろいろ意見が出てきた。それに伴ってより良いルート案を作っていく。100%正解というのは出てこないと思うが少しでも親御さんとか子ども達が安全に利便よく通学をするためにどうしたらいいか、最善策を見つけていこうということ。100%結論がこれというところまで最終

的には出てこないと思う。どんなに良いものを作っても、これではできないという人は当然いらっしゃると思う。いくら最善のスクールバスにしても乗りたくないという方もおられる。基本的にはこうだからこうしてくれないとダメですよではない。スクールバスだったら絶対スクールバスに乗ってくださいというやり方ではなくて、スクールバスを出すのであれば、皆さんがより良く使えるような方法をルート等を含めて議論していく。その結果、親御さんによってはうちはいいよという方もおられるかもしれない。最終的な決断を出されるのは、親御さんの方でという形になると思う。やってみてまた改善するというのも一つはあると思うが、あまりそぐわないものからスタートして、手直しするのもかなりの人的パワーがかかるので、今のうちに最適な方法がある程度煮詰めておいて、それをいろいろ改善していこうと。これで決定ですというよりは、多分やりながら手直しが出てくると思う。例えば、子ども達の数も変動する。令和9年の時はこの地区はこれだけいたが、来年は減っているかもしれない。バスルートもいろいろ変える必要性も出てくる。それは臨機応変にある程度対応していくということも大事だと思っている。

委員 5 ・わかった。質問の意図と少し違うが、知らないので申し訳ないがこれを決めるのは誰なのか。

事務局 ・この部会でいただいた意見を全体会の準備委員会があつて、そこで最終的にオーソライズしていただく。

委員 6 ・ここを出した意見が参考意見として全体にもう一回話をして決まっていく。

事務局 ・その方向で我々が動いていく。そういうつもりでいる。

部会長 ・今のような意見をどんどん出していただき、質問があつたらどんどん出していただくと、より良い会になってくると思う。ぜひ、よろしくお願ひしたい。

委員 7 ・単純に思ったことを述べる。3kmにラインが引かれるということと、1.5kmもこの地図にあるように、子ども達がここで通学しやすいエリアということで示されている。単純に1.5km未満、自分の家も1.5kmまでに入っているが、そこには学校発足時に154人の子どもがいて歩いてくるだろう。次に、1.5kmから3kmまでの区分の中に140人の子どもが学校発足時には住んでいる。この子どもたちは普通で考えたら歩くか、自転車の方がバスに乗るより近いなど考えると思う。3kmより遠い子どもたちは今議論にあつたようにバスに乗ってくる。バスのルートの選定は、学校が発足する時に子ども達の分布を見て、一番効率を拾えるルートをきつと通るだろうと思うので、数年経てばより効率的なルートを選ぶことにきつとなるだろうと単純に思う。日々家庭の状況が変わる。例えば今日帰りに病院に行きたいとか、これはいいかどうかは別にして、今日はたまたま仕事が早く終わるから子どもを迎えに行きたいとか、そういうニーズは確実に毎日変化しながらどの子にも発生してきてそれに対応するとなれば、朝のうちに親御さんが子どもと約束をして対応していくしかないだろうと思う。そうすると、先ほど質問にも出たように、朝バスに乗ったけれど帰りは乗らないという子は、運転手が完全に数を把握するのは多分難しくなるだろうと想像する。多分試算もされているし、もしかしたら実験もされているかと思うが、例えば東野とか伊知地あたりから来るバスはどれくらい時間がかかるのかを教えてもらえたらいい、皆さんも疑問に思

われるのではないかと考えている。例えばそれが平泉寺のルートであったとしても、単純に考えてニーズはどんどん多様化していくし日々変わるので、最終的には選択の幅の中からそれぞれの家庭が選んで通学することに落ち着いていくのではないかと考えている。ただ、勝山市の中学生の非常にたくさんの子どもがバスで通学するというのは、おそらく史上初だと思うので、いろいろなケースを考えて議論するのが大事ななと感じた。

事務局 ・昨年度もだいたいどれくらいの時間バスに乗るのかという話をされてバスに乗るのは最高でも30分くらいが目処かなと思っている。30分を目処にしてたくさん停まると時間がかかるし考えていかないと30分以内には着かないという話はさせていただいた。どの路線も30分以内には着くように考えていかないと難しいという話は昨年度出ている。

委員 8 ・今年からPTA部会ということで勉強させていただきながらと思うが、今日初めてこの8ルート（案）と10ルート（案）を見て、手厚いなという印象をすごく受けた。ほとんど中学校は送り迎えしていたので、実際すごく手厚い中でどれだけの生徒が乗るのだろうか、ただ冬場もあるので、手厚いところも必要なのかなと感じた。一方で、持続可能性の点で、多分委託するだろうがこの時間に8ルート10ルートのバスと運転手を未来永劫続けていけるのかというところは非常に難しい、正直厳しいのではないかと感じる。なかなか最初から手厚いと縮小できないところもあると思うと、送迎がある程度あるという前提で、バスの本数を減らして時間はかかると思うがそういう案が必要ではないかと思った。これが例えば10年20年続くとなると相当な負担がかかるという感じでそれを続けていくのはどうなのかと思った。中学校再編に関しても、いろんな意見がある中で、より良いものというものはあるが、可能性のところを含めていくことも必要かと思った。

事務局 ・中学校を統合して町の中心部に持ってくると、当然平泉寺とか北部中校下が学校まで遠くなるので、統合はしておいて通ってくるのは勝手にしなさいということは我々としてはできない。やはり遠くなる子については、バスという手段でサービスしたい。先ほども申し上げたが、無料という形で乗ってもらえばいいということを考えている。もう一つは保護者の送迎は、特に天気の悪い日は多い。当たり前のようになっているが教育委員会としてはそこに頼るといえるか、その形はあまり良くない。特に学校が遠くなるので、現状を考えると、おじいちゃんやおばあちゃんが乗せていくこともあると、今まで以上に運転する距離が長くなり安全の面でも危ないということもあるし、現状だと、例えば自転車とか徒歩で中学を通っている場合に少し遅くて夜が遅いと、クマが出るなど獣害の心配もある。そう考えると、バスを利用してもらうことが通学の安全安心を確保することになり、車で来るよりバスの方が時間がかかるかもしれないが、運行の利便性を上げることで乗ってもらうようにしていただければ、例えば北部の坂東島、伊知地の方は、バス停まで歩いてもらえば、あとはバスに乗って学校まで安全安心に行ってもらえる。そういう世界をしっかりと作りたいと思っていることが根底にある。それで保護者送迎自体も減らしていきたいという思いもある。スタートの時には基本的には全ての生徒がバスに乗れるような体制でスタートしたいという思いがあり、それが持続可能かという話になると、開校してから5年10年経つと

子どもが減ってくるので、自動的にバスについても全てのルートがなくなっていくということではないかもしれないが、やり方も縮小していく。中型だったものがマイクロでいいという縮小もあるだろうし、スタートの形をずっと10年、20年続けるということではないと思っている。その時、子どもの数とか状況に合わせて変えていくというような思いでいるので、開校の時の500人規模の子ども達をどう安全に学校に来てもらうか、安全に帰ってもらうかというところで、バスについては考えていきたいという思いでいる。

部会長 ・当然ドア・ツー・ドアが楽だとは思う。そのように考えてしまうと逆に車の渋滞が発生して、近辺での車に関するいろいろな障害が発生する危険性が非常に高くなっていくこともある。基本的に送迎をできるだけ減らせるような手段としてスクールバスも一つの理由としてあるとご理解いただけたらと思う。

委員9 ・2年目ということで経緯については特に分からないことはない。よろしくお願ひしたい。

委員10 ・皆さん結構いろいろ言われたので大体そのような感じかと思うが、勝山市立の学校としては送迎の手段を最初に持つておかないと後からというのはなかなか難しいことだと思うので、スクールバスをこうやって考えていくのは大事なことかなと思う。ただ学年によっても、季節によってもだと思う。自分が高校の頃に北郷の友達は自転車で夏は来ていたということを見ると、中学校3年生ぐらいになってくるとみんな自転車で来るのではないかと、先ほども言われたが、天気の良い時とか夏は自転車で来るけど、冬とか雨の日はバスに乗った方がいいとか、いろいろあると思う。そこを考えるにしてもある程度カチッとしたものを出しておいて、また後から修正していけばいいのではないかと考えている

部会長 ・いろいろご意見をいただいたが、今後の中で議論を深めていきたいと思う。いろんな見方が出てくると思うが、例えば自分の子どもが勝山高校に行くのに自転車通学をさせた。家で髪の毛をセットして学校に行ったらぼさぼさになっているらしい。いろいろな捉え方があると感じた。そのようなことも含めて、基本的には、子ども達の安全を守るためにどうしたらいいかということを考えていくのがベストだと思う。皆さんの今のような意見もどんどん組み入れていって、いろいろな議論をしていきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。昨年度の振り返りについてはこの辺で区切りとして、次に今年度第1回のPTA部会としての新しい議題に入っていきたい。事務局の説明をお願ひしたい。

(スクールバス通学について (案))

事務局 ・資料2、スクールバス通学について (案) を説明

- ・基本的な考え
- ・具体的提案
- ・現状とスクールバスの範囲を1.5km以遠とした場合
- ・ルート案
- ・検討すべき点

資料3、スクールバス利用人数 (案) を説明

部会長 ・これまでの提案では、基本的には3km以遠の子ども達を対象にしていたが、

さらに幅を広げて1.5km以遠の子ども達も対象にスクールバスの利用を可能にしようという提案の内容だと思う。先ほどの持続的な問題とかいうことも含め、実際に物理的な問題で果たして本当にバスが準備できるのかという議論に入ってしまうと、これは結論が出る話ではない。3km以遠については一応昨年度の会議の中で今その方向性で進めようということで打ち出されている。さらにそれを1.5kmまで広げようという提案に対して、これは必要性がないのではないかとか、ぜひ少しでも子ども達をバスに安全に運行させる上では必要性があるのではないかとかを含めていろいろ意見があろうかと思う。具体的なことではなくて、客観的にこれは必要性がないとか例えばこうするとこういう問題が出てくるのではないかとかを考えていただき、皆様のご意見をいただければと思う。

- 委員 1 ・いくつか分からないことがあるので聞きたい。今は勝山高校は3km以上のところはスクールバスを使っているのか。これは勝山高校周辺のスクールバスの話で、今スクールバスは存在しているということか。
- 部会長 ・スクールバスは今はない。3km以遠もない。
- 委員 2 ・安全安心を確保して安全に通学をさせたいというのが目的だとすると、今は安全安心ではない環境があるということになる。それはどういったことか。要は事故があったのか。
- 事務局 ・そうではない。今も非常に送迎が多い。
- 委員 3 ・それは事故になっているということか。それとも危険な状況になっているということか。
- 部会長 ・近隣の方からもいろいろ聞いたこともあるし、中学校にも結構送迎の車が多い。会社に行こうとすると中学校から出てくる車と公道に出るところの交差するところで待っていたりするケースが結構あったりする。生徒数が増えて送迎の車が増えれば、よりそのような問題の発生する可能性があるのではないかと。
- 委員 4 ・気になったのはその点である。実際、安全安心をどう担保するのかとなった時、現状の問題点を具体的に解決しないと意味がない。それがスクールバスを導入することによって今抱えている問題も改善するのであればありがたいが、そもそも改善するのかどうかというところが何と比較してよかったがないとわからない。だから何をもって安全安心を担保して、このスクールバスを入れることによってどう改善するのかがないと議論が進まないことが気になった。1.5kmか3kmかはいいとか悪いかの話で、何で何をしたらよくなるかという話だと思う。
- 事務局 ・要するに今の現状では送迎の車等も多く、さらに一つのところになると集中してくるので、今よりたくさん車が来る可能性がある。そしてそれだけのものをお家の方やおじいちゃん、おばあちゃんに負担をお願いするような形になってしまう。クマとか災害だとなると心配ですから、迎えに来ていただいたりすることもある。しかし、スクールバスを出すことによってそのようなことは少しでも防げるのではないかとこの考え。だから今おっしゃるように車同士のもしかすると事故につながるようなケースも少しは防げるのではないかと。渋滞も防げるのではないかと。
- 委員 5 ・それは通学に車を使って送迎をする人たちの割合を減らしたら、それを目標

	<p>値としてはどれくらい減らす目的でバスを導入するという話がないと議論にならない。通学で何百何十台の車が入るうち、例えば半分にした、目標値は半分だと、送迎は200台までにさせたい。そのためにこの本数がないと困る。そのためにはこのルートでこうあるべきだでないと、多分、この本数を増やすと何人に減るかという、KPI設定というか、そういったものができてないと議論にならない。目的が安全安心ならそうなる。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> それは希望もあるが、全員バスに乗ったら送迎はゼロになる。しかし送迎はゼロになるとは限らない。だからできるだけ乗っていただきたいというこちらの思いになる。それを例えば10%だとか、そんなことはなかなか言えない、こういう環境を用意するのでぜひ乗っていただきたいということになる。
委員6	<ul style="list-style-type: none"> 最悪パターンと最高パターンと両方考えられるとあっていて、誰も乗らなくてバスを運行するという事は単純に交通量が増えるので、数値を出す必要があるのではないかと考えている。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> 基本的にどれだけの生徒がバスを利用してくれるか。
委員7	<ul style="list-style-type: none"> だから、運行側としてはどれくらい利用するかを期待値として想定しなくてはいけない話だと思う。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> もう一つ安全性から言ったときに、子どもが自転車で通学していると不安になる。やっぱり事故、自転車での事故というのは非常に問題視されている。加害者にもなるし、被害者にもなるので、親としては心配なところもある。そういう意味で、スクールバスを利用できればその心配は解除できるかと思う。ただ今おっしゃるようになかなかこの数字のシミュレーションが一番難しいところがあるので、客観的にそこまで必要なのかという部分もあるだろうし、実際にこのあたりのところを子ども達の意見も聞いていかなければならないと思う。子ども達が実際に使うか、使わないかというアンケートはとれるのか、子どもがどう思うか。親はやはり心配なので、自分は自転車には乗せたくなかったがそれしか手段がなかった。親としてバス利用させたいという思いは特に女の子なら余計に強い思いがあるので、アンケートを取ればいい。ただ令和9年になるから、今の5年生4年生3年生が対象になってくる。小学校5年生4年生3年生に質問しても、答えは出ないかもしれない。そうなら、親の方がどう考えるか。今の説明だと、こういうバスを出すので、できるだけ車に乗らないで来てくださいという一つのアプローチになると思う。こういうバスは無しで車での送迎をやめてということは言えないと思う。一つの手段としてこのようなものを用意しているので、できるだけ送迎は控えていただきたいというような言い方はできるかと思う。今後今のような話も含めて議論を深めていきたい。
委員8	<ul style="list-style-type: none"> 資料2の3番の表を見ると、自転車通学がゼロで徒歩かバス通学になっていて、徒歩かバス通学しかできないようになっているが、自転車通学がゼロになったらいいという思いでされている考えか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな生徒がいるとされている。例えばバスを用意したので乗ってください、できるだけ乗ってくださいと言われても、もしかすると乗れない、乗りたくないという生徒もいたりする。あるいは遅れたときにどうするのか、あるいは絶対自転車なんだという子もいるかもしれない。だから自転車に乗ってきてはダメですよ、禁止ですよということは言えないのではないかと。

の自転車通学についても少し皆さんのご意見等もいただければなと思う。だからバスも絶対とも言えないし、自転車も絶対禁止とも言えない。ただ自転車も全員でバスも全員でといったときには、ある程度何かは決めないと、範囲的なものも少しは決めないといけないと思う。

委員 9 ・仮に自転車通学なし、全員バスも乗るとしても、まかなえるルートと台数を準備するということがよろしいか。

事務局 ・そう考えている。

委員 10 ・昨年度の話の中で、資料の中にも載せてあるが、朝は1、2便で夕方は2、3便必要ではないかという議論をさせていただいていたと思うが、この12ルートを設定する上では朝1便、夕2便を想定しておかないとバスの台数も考えないといけないので、この便数ということよろしいか。

事務局 ・これはあくまでもこちらの案なので、それはやはり朝は2便必要だろうとなればそうなるし、昨年度とは変えたということではなく、あくまで案で決まっているものではない。

委員 11 ・保護者は1.5kmでも2kmでもバスに乗りたい子とか、体のこととかいろいろな家庭の事情もあるので、希望する子は乗せてあげた方がいいと思う。例えば3kmで遠いけど親の考え方とか、バスも絶対安全とは正直言えないところもあると思う。各家庭の考えなので、ここにいる保護者が話をした考えと、実際に通う保護者の考えは違うと思う。そこは実際にアンケートを取ってどうなのかを見て、数字を出した方がバス会社にもいいと思う。今、なるべくバスを利用するのが前提で、どうしてもという保護者が車というものもある。特に通うのは子ども達で、上下関係、人間関係とか精神的な気持ちの面で新たな学校に行く。例えば実際不登校ぎみの子もいる現状で、ガチっとしてしまうとそのバスに誰々がいる、先輩がいるから乗りにくいとかがあるので、子ども達の気持ちを一番大切にしてほしいと思う。安全だけではなくてメンタル面を考えると、学校に行けないことになるくらいなら自転車で自由に行くという選択肢もないと、子どもがしんどいかと思う。自分は子どもが何を考えているのか、学校で何を考えているのか全部は分かっていないが、急に1校になって、いろいろな人がいる中で1校に入るのにみんな頑張っていく。バスに乗れない子とか、上下関係とかいろいろあると思うので自転車も残してほしいと思う。

部会長 ・非常に大事な点だと思う。子ども目線に立った時にどうかという考え方も重要になってくると思うので、事務局からはがんじがらめでこうしなくてはいけないという話ではない。一応スクールバスという手段を用意しておくけれども、今のようないろんな事情もあるだろうし、バスには乗りたくないという生徒も出てくる可能性もあると思うので、今後そのあたりのところも議論を進めていきたいと思うので、ご意見をいただきたい。

事務局 ・全員自転車はダメということではない。

委員 12 ・少し様子を見て無しというようにしていくのも安全だと思うが、メンタルの面も考えてほしいと思った。

委員 13 ・感覚的には1.5kmから3kmは自転車には一番いい距離で、説明を聞いて理解はしたが違和感があった。そのために4便増やすようなルート案になっているが、例えば平泉寺に回っている車が旭毛屋に寄って来れるのではない

	か、滝波は北郷、鹿谷から行けばいいのではないかと。おそらく日によって乗る人数が違うかもしれないが、その地区のためにまた便を増やすのは少し違和感がある。
事務局	・これはたたきの案なので、8ルート（案）をもとに広げた地区だけを考えたものなので、今おっしゃったように途中拾えるのではないかとという可能性は十分ある。
部会長	・もしかしたら通学時間にも影響してくる可能性があると思う。要は停まるところが増えてくことによって当然停留時間がかかるので、一番最初のスタートする時間を早めるということも出てくる可能性はある。おっしゃるようによくこれで行くのであれば、そのような方法についても検討する必要があると思う。
委員 14	・皆さんの意見を聞いていて、勝山ならではの問題かなという気はした。公共交通機関があっても、子どもの行きたい時間にそれが走っていないとか、それを言い出すとどうしようもないが、それが走っていればこのように考えなくてもバスに乗ればそこに行くことになる。今は選択肢を一生懸命考えていただいているんだろうと思う。
部会長	・中学校の今の現状を踏まえて何かあるか。
委員 15	・子どもに下校方法の変更を伝え忘れたから伝えてもらえませんかという電話が来る。例えば徒歩の生徒に対して、今日迎えに行けるようになったから迎えに行く子どもに伝えてもらえませんかというのはどこの学校でもある。今は基本的には教員が受け負っている。でも運悪くそれがすごくバタついていて時間帯の電話だったりして、子どもに伝えることができなかつたりということもある。これからこの学校でバスにもたくさん乗るのに、そういうことが起こるととても困る。当然のようにバスの中でいろいろなことが起きる。そのことに対しても、考えていくのが例えば先生の仕事になるととても困る。永平町は思いのほか広いので、子ども達もえち鉄で通学をする。勝山では初めてのことだが、中学生がバスなどに乗って長い距離を通学してくるということについては、そんな特別なことではないと思う。小学生でもやっている。通学方法に対して付随することによってどのように対処していくといいのかを考えたい。今日いろいろな方のご意見を伺って、ある程度多様な選択肢を残すことは不可欠かなという思いがある。
部会長	・例えば今の市バスみたいな感じで、公共機関のバスが流れていけばそれを利用させればいいという考えか。
委員 16	・実際そうやっている学校はたくさんある。先ほどおっしゃったように、公共交通ルートとか時間が合っていない。いずれにしても現状より長い距離を通学している子たちが圧倒的に増えるので、それに対する手立てを取っていくというのは大事なこと。
事務局	・おっしゃったように公共交通機関の時間の問題もあるが、それがうまくできれば例えば乗れるかもしれないという話も出てくるかもしれない。
部会長	・えち鉄の場合はルートが決まっているが、バスの場合にここを合わせる、ここも合わせるというわけにはいかないと思う。公共バスの場合には、バス停までの距離的な問題も出てくる。バス停まで車で親御さんが送って行って市バスに乗せるくらいなら学校まで送るという話になってくると思う。選択肢

としては両立てで考えて、公共バスがもしそういうルートで流してもらえるのであれば、公共バスを利用するというのも一つの方法になるし、それだけでカバーしきれないところをスクールバスを用立てていくという考え方もある。ただ今のところ、公共バスというものを今全面的に利用することは極めて難しいかなという状況の中で検討していくとすると、まずスクールバスというのがある。ただその運用については今おっしゃるようにバスの中での状況であったりとか、先ほど言われるように子ども達のメンタルの部分であったりとかも含めてどういう仕組みづくりが必要かを検討していく必要性があると思う。

委員 17 ・議論の冒頭にも出たが、スクールバスの路線が定時に運行する。それを、あたかも公共バスのような活用の仕方で運用する。公共バスは多分何もできない。そういう選択肢としてはある。

部会長 ・そこに一般の方が乗ってきても問題はないのか。去年の意見として知らない人が乗ってくることに抵抗があるという方もいた。子ども達だけでないと困る、知らない人が勝手に入ってきて、その中で来て事件、事故につながることもなっても困るし、一般の公共バスに乗せるのも不安だという意見もあった。そういったことを考えた中でスクールバスという形の方法で進めてきている。

事務局 ・補足をするこの資料は中学生の資料。去年の議論の中では、スクールバスは中学校の子のためのものだが、勝高生が乗ってもいいのではないかという意見と、それはダメだろうという意見があった。まだ結論は出ていない話だが、同じところへ通うなら、勝山市としては勝高生に乗ってもらってもいいと思っている。高校になったら別の学校に行くんだから、高校生になったら自由でいいのではないかということもいいと思うし、中学3年間スクールバスで通っていた子が、もし勝山高校へ進学したら、もうバスに乗れないということが3年後くらいに起きる可能性もある。そこも柔軟に考えないといけないと思う。ただ、高校生もとなると人数が増えてくるので、バスの大きさとか1回では運べないから時間差で2便出すということも考えたりすることもある。昨年度の議論ではそのようなこともあった。もう一つは保護者送迎の考え方というか、これは学校サイドとしてたくさんの保護者送迎があるときにどうなのかということ。現実勝山高校の場合は長山から坂道をカーブで降りてきて学校に入る道なので、勝山高校にはルールがあって保護者送迎はまずやめてほしいということと、来ても一方通行のルートを作ってこういうふうに動いてくださいとお願いしているが、なかなかそれが徹底しなくて、車がぶつかりそうになったり、その横を子どもが自転車とか徒歩で歩いてくるので非常に見ていて危ない、毎日ヒヤヒヤしているという状況があったり、近隣の住民の方が車がどンドン朝来て危ないというようなこともあったりする。中学校も雨の日に多くの子が車で来ると、安全面は心配があるのかと思う。教育委員会の立場としてはなんとかしたいという思いもあり、それから通学距離が大きく延びるということでバスを用意するということが必要になる。この資料は自転車通学0人となっているが自転車通学を禁止するというつもりはない。1.5kmより遠い子を全部乗せると316人でそこをマックスとして考えていくことが大事だと思っている。

- 委員 18 ・提案がある。現状を見たときに自転車通学の生徒は雨になるとほぼ送迎になる生徒が多い、冬期間は徒歩が少なくほぼ送迎になるというデータが出ている。事実、保護者は何かがあったときに送迎をしたいと思っているということはデータで取れている。今度の中学校は新しく作る。新築で今までの高校や中学校は自分たちが小さい頃からある中学校だったり、高校だったりするから、自転車で行くのは当たり前、歩くのは当たり前の世界線で作っている建物である。これから先の親の世代は、基本的に車で送迎することは当たり前前の世界線で動いている人たちが新しく学校を作るときにそちら側に合わせる設定を先にした方がいいのではないか。これは今ぐらいから考えないといけない話で、設計段階から送迎ができるロータリーをあらかじめ作ることを考えるべきで、それでも担保できないバスの話は前年でもどうにかなる話ではないか。物事を優先順位的に考えると今のニーズはこれ、これから先のニーズはこれ、そして今の親の教育と子どものコミュニケーションの取り方も、自分たちが小さい頃から明らかに様変わりしているのもみんながわかっている話だとすると、なぜそちら側に新しく作る学校を合わせないのだろうと思う。例えば近隣の交通問題が起きているというのはあくまでも性善説で今の学校の話。新しく作る新築にそもそも交通の便が悪くなることを想定する設計をしてしまったら取り返しがつかない。新築で作るときに初めからそういうことも想定して近隣に迷惑がかからない設計をしっかりと送迎ができる環境を整えた上で、それでもバスが必要であれば後から追加すればいいのではないかと思う。優先すべき考えは新しく建てる建物のディテールではないかと思う。先にそちらを優先して考えるべき、送迎は悪というのは、あくまでも今の地形だから。それが近隣からトラブル出ない、親もそれを望んでいる、そして良い悪いの連絡体制とかルール決めもしなくていい、安全安心もある。だから先にそちらを検討してからそれでも足りない部分をバスで担保する方が健全だと思う。そちら側を検討されることを希望する。
- 事務局 ・送迎についてはジオアリーナの駐車場を送迎の乗降場所と考えている。
- 委員 19 ・それも今は性善説で新しく建築を建てる時にそれすらも担保しているものを作ってしまうばいい話。その方がいいと思うし、高校の送迎だって、ジオの中の地下の中を通るものがあるのだろう。それはそれでバスのロータリーにしてもいいわけだし、活用の仕方があると思う。作ったらもう無理なので送迎を良しとすること自体を一旦ここでどうするか決める必要がある、ただ保護者の意見としては、数で完全に送迎ありということも事実として出ているので、それを覆す方向に力を使うのか、そちら側にいなす方向に力を使うのかで、大きく変わる。大事ではないかと思う。
- 部会長 ・親御さんは本当に送迎を望んでいるのか、やりたいのか。実際に来られるのはおじいちゃん、おばあちゃんが乗せてくるケースが多い。お父さん、お母さんは仕事にいかなくてはいけないし忙しい。結構おじいちゃん、おばあちゃんが運転して送って来られるケースが多い。おじいちゃん、おばあちゃんが喜びとしている人もいるかもしれないが、バスを利用したいなという人もいると思う。
- 委員 20 ・バスを追加するかしないかは後からどうとでもなる話。
- 部会長 ・逆にある程度ルート案を用意しておいた上で、そこに車で来られる人は車で

来てもらってもいい。その時に大型を用意していたが中型でいいという形になる可能性があると思う。そういう意味で、まず全員がバスで運行するルートで考えておいて、そこに車で送迎する方が出てくるのであれば、今まで子ども達が50人いたから大型バスを用意していたけど、実は20人しかいないから中型でいいという規模の縮小もあると思う。

委員 21 ・おっしゃっていることはよくわかる。それは後でどうにでもなる話だと思う。安全とか近所からクレームがくるとか入り口出口の交通量が増えるからしんどい、それをやめたいからバスという背景が確実にあると思って聞いていた。そもそもそれが本来のメインテーマになる可能性がある。子ども達の安全安心と言うが事故率はどうなのか、近隣からのクレームだったり、交通のことがあると精神的に危ないと思う。それは今の校舎だからダメなわけで、新しく作る校舎をそうではない校舎にした上で、送迎ができて470人の送迎を収容できるだけのルートを確認したということが今ならできるという形。今話していると、送迎は本当に良いのだろうか、悪いのだろうかとかバスにするとこうなんだろうかという話は、正直後でいいと思う。まずは送迎を受け入れるということが大前提にあって、それをバスを入れるために送迎を否定するみたいな風潮になっていくと、大きく間違える可能性がある。

部会長 ・ジオアリーナの駐車場を送迎場所にして、バスも入れるが、そこで乗り降りさせる。子ども達を送迎してきた車を学校側につけるのではない。通常のスクールバスで来た子が地下通路で学校の入っていくのと同じところを通って学校に入っていく。そのためにジオアリーナの駐車場があって、そこを送迎用に利用できるのではないかという先ほどの話だった。送迎を全く無視して考えているというわけではなくて、送迎があった場合にはそこを利用してもらえるだけの場所の確保がされているという認識で捉えている。

委員 22 ・そうするとバスを入れたときに出てくる先ほどの交通量が増えて近隣からのクレームが起きるといった問題が無くなる。

事務局 ・今おっしゃったこともあるが、まず通学の距離がものすごく長くなる。そういう状況は計画ではここに学校を作ることだから、通学距離が長くなった子ども達に対して自転車で来たとか、親に送ってもらいなさいとかは我々としてはできない。そういう子たちのためにスクールバスをしっかりと走らせるということは大事だと思っている。学校としても親の送迎をあてにしてという言い方が悪いが、送ってくるということで、いろいろな計画を考えることは間違っていると思う。そういう意味でスクールバスを用意する、利便性をいろいろな意見をいただいて検討して上げて、できるだけ乗ってもらうという方向をしっかりとやっていきたいということである。

部会長 ・基本的に送迎を完全にシャットアウトするという話ではない。送迎の時には今のジオアリーナの駐車場を利用して街中へは入れない。国道沿いから入っていけばそれほど近隣の人に迷惑をかけることもない。市の立場としては、スクールバスでの運用をベースにして、それに送迎の車という考え方になると思う。両方を考えていくことで進めさせていただく。

委員 23 ・スクールバス否定していない。優先順があるのではないかと、建築する時に考えなくてはいけないことがあると言うだけ。スクールバスは一切否定していない。

- 部会長 ・車の送迎する場所というのは基本的に建物とは多分リンクしないと思う。今、勝高に建てる場所的な問題では、そばに駐車場を作るといのは物理的に無理だと思う。今あるような場所を利用して送迎できないだろうかということになってきていると思う。長山も削って駐車場にしてしまうといのはそれも物理的にできる話ではないと思う。言われることは理解できる。それも含め今後は検討を進めていきたいと思うので、いろいろな意見をお願いしたい。今日はとにかく皆さんのご意見だけをお伺いしたいという趣旨で開催させていただいている。次回の時までは皆さんのいただいた意見をさらに具現化して提案していただく形になろうかと思うのもし言い残していることがあればお願いしたい。皆さんよろしいか。事務局もよろしいか。今日は長時間にわたっていろいろご議論いただき、非常に活発なご意見がたくさん出てきた。これからの忌憚のないご意見をどんどん出していただいて少しでもいいようにしていきたいと思うので、ご協力をよろしくをお願いしたい。
- 事務局 ・たくさんのご意見をいただき感謝。新中学校を建てることになり、今まで勝山市にない通学風景が令和9年には始まる事になると思う。まだしばらくあるので、今日のようにたくさんのご意見をいただいて、より子ども達にとっていいものを作っていきたいと思うので、今後ともどうぞよろしくお願いしたい。本日はどうもありがとうございました。

資料1. スクールバス（直行方式修正案）について（R4年度第3回PTA部会資料）

資料2. スクールバス通学について（案）

資料3. スクールバス利用人数（案）

参考資料. 第3回PTA部会での意見抜粋（R4年度第5回再編準備委員会参考資料）